

2023(令和5)年度

学校法人麻生塾 事業報告書

2024年5月31日

学校法人麻生塾の建学の精神

「仕事を通じて社会に貢献」

麻生塾の沿革

麻生塾は1939年（昭和14年）3月31日、採鉱技術者を養成する目的をもって、福岡県飯塚市柏の森の麻生農園跡に誕生した。それは、個人商店として炭鉱事業を営んでいた組織を「株式会社麻生商店」として会社組織に変更した20周年を記念した、教育関係3事業のひとつだった。麻生塾は同社社長・麻生太賀吉氏（1911年～1980年）の、とりわけ深い思い入れをもって創設された。

麻生太賀吉氏は、少年時代に指導を仰いだ九州帝国大学教授の河村幹雄博士（地質学、1886年～1931年）の卓越した人格と学識に強い感化を受け、同博士の教育の理想を具現した学校設立を念願していた。河村博士は地質学者である一方、「教育の他に何者もなし」の信念のもと、教育者としても名高く、今日にも通じる多くの提言を残されている。

時代は太平洋戦争前夜、すでに中国と交戦状態にあり、日々戦時色が濃くなる中、石炭増産が強く叫ばれていた。

麻生塾の目的は、職業を通じて社会に奉仕する中堅産業人を育成することだった。麻生太賀吉氏は、どのような時代になっても人間教育が最も大事であることを、強い信念としていた。創設当時の新聞には「昭和の松陰塾」と報道された。

開校当初、麻生塾の修業年限は3年、これを学習2年、実習1年に分け、各学年とも1学級とした。河村博士の教育方針に徹して少数定員主義をとり、1学年の定員を20名以内とした。入学生は高等小学校卒業生を対象とし、生徒は全て寄宿舎に入る全寮制、学費は全額を支給するほか、社員見習いの資格で月々若干の手当ても支給されていた。

長い戦争が終わり、新生日本の六三三制教育の実施に伴い、1948年（昭和23年）3月、麻生塾は新制高校、麻生塾工業高等学校（採鉱科）として再スタートを切ることになった。学制は変わっても、「仕事を通じて社会に貢献」という建学の精神は、少数定員主義、全寮制、給費制とともに、戦後もそのまま堅持された。そして、その特異な校風は広く教育界に認められるところとなった。

2023(令和 5)年度 事業報告書・目次

I. 法人の概要	
1 沿革	… 5
2 設置する学校・学科	… 6
3 学校別入学定員、学生数等の状況	… 8
4 組織図	… 9
5 教職員の概要	… 10
II. 事業の概要	
1 重点施策の推進	… 11
(1) 学生募集活動の強化	
①募集活動	
②入学状況	
(2) 就職・キャリア形成支援	… 12
①就職支援策の実施	
②求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の導入	
③多様化する学生への就職サポート	
④外国人留学生への就職サポート	
⑤実績及びその他の活動	
⑥ASO卒業生キャリア支援「CONNECT(コネクト)」の運営	
(3) 教育の質向上	… 13
①教員の資質向上	
②教育の質の向上	
③主体的学びの促進	
④授業改善	
(4) グローバル化の推進	… 14
①麻生塾海外留学奨学制度	
②外国人留学生の受入れ	
③海外留学(長期/短期)の強化	
④インドネシアBINUS 大学 3,4年次生のインターンシップ受け入れ	
⑤教職員におけるグローバル感覚醸成	
2 学校運営	… 15
(1) 運営組織	
①本部機能	
②各学校	
(2) 社会的責務への対応	
①社会的責務を果たす前提としての組織適正化	
②継続的な取り組み	
③2023年度の取り組み	
3 教育活動	… 16
(1) 学科の新設、廃止	
①麻生外語観光&ブライダル専門学校	
(2) キャリア教育(グローバル シティズン・ベーシック教育:GCB 教育)	

①GCB 教育の概要	
②教育改善	
(3) 研究関連活動	
4 学生支援	… 18
(1) フレックスクラス・学生相談室	
①実施内容	
(2) 学びラボ	
①実施内容	
(3) 学修支援のための奨学金制度	
5 教育環境の整備	… 18
(1) 教育環境の整備状況	
①ICT 教育環境の改善	
6 社会貢献・地域貢献	… 19
(1) 活動状況	
①次世代リーダー養成塾への担任派遣	
②ボランティア活動	
7 働きがい創生	… 19
(1) 多様な働き方への対応	

I. 法人の概要

1. 沿革

1939年(昭和14年)3月	麻生太賀吉、麻生塾を創立
1947年(昭和22年)12月	財団法人麻生塾を設立
1948年(昭和23年)3月	学制改革により麻生塾工業高等学校 開校
1951年(昭和26年)3月	学校法人麻生塾に組織変更
1980年(昭和55年)4月	飯塚病院附属高等看護学院を学校法人麻生塾麻生飯塚看護専門学校に改称
1986年(昭和61年)4月	麻生電子ビジネス専門学校 開校(1号館)
1989年(平成元年)4月	麻生飯塚看護専門学校を麻生医療福祉専門学校に改称
1991年(平成3年)4月	専修学校麻生外語観光カレッジ 開校(3号館)
1996年(平成8年)4月	麻生法律専門学校、麻生医療福祉専門学校北九州校、 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジ、戸畑に開校
1997年(平成9年)4月	麻生医療福祉専門学校福岡校 開校(4号館)
1998年(平成10年)4月	麻生工科専門学校 開校
2001年(平成13年)4月	麻生リハビリテーション専門学校 開校 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジを麻生電子ビジネス専門学校北九州校に改称
2002年(平成14年)4月	麻生法律専門学校を麻生公務員専門学校に改称 専修学校麻生ビューティーカレッジ 開校
2003年(平成15年)4月	麻生電子ビジネス専門学校を福岡校、北九州校 とともに麻生情報ビジネス専門学校に改称
2004年(平成16年)4月	麻生塾 北九州キャンパス小倉校舎 竣工 麻生公務員専門学校を麻生公務員専門学校北九州校に改称 麻生情報ビジネス専門学校北九州校及び麻生公務員専門学校北九州校 移転
2005年(平成17年)4月	麻生公務員専門学校福岡校 開校 麻生工科専門学校を麻生工科デザイン専門学校に改称
2006年(平成18年)4月	専修学校麻生外語観光カレッジを専門学校麻生外語観光カレッジに改称
2008年(平成20年)4月	専門学校麻生工科自動車大学校 開校
2008年(平成20年)8月	麻生外語観光カレッジの新実習棟「ASO SKY CUBE」 竣工(8号館)
2009年(平成21年)4月	専門学校麻生外語観光カレッジを麻生外語観光&製菓専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校を麻生看護医療専門学校に改称 麻生工科デザイン専門学校を麻生建築&デザイン専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校北九州校を専門学校麻生医療福祉&観光カレッジに改称
2010年(平成22年)3月	麻生公務員専門学校福岡校 新校舎竣工(9号館)
2012年(平成24年)4月	麻生リハビリテーション専門学校を専門学校麻生リハビリテーション大学校に改称 麻生看護医療福祉専門学校を専門学校麻生看護大学校に改称
2012年(平成24年)9月	麻生塾 北九州キャンパス西小倉校舎 竣工、麻生公務員専門学校北九州校 移転
2015年(平成27年)3月	福岡キャンパス10号館 竣工
2015年(平成27年)4月	株式会社麻生キャリアサポート 設立
2016年(平成28年)9月	福岡キャンパス11号館(旧博多織会館)取得
2017年(平成29年)7月	株式会社プロジェクトスタジオQ 設立
2018年(平成30年)4月	ASOポップカルチャー専門学校 開校
2019年(平成31年)4月	ASO高等部 設立
2020年(令和2年)4月	専修学校麻生ビューティーカレッジを麻生美容専門学校に改称、福岡キャンパスに移転
2022年(令和4年)3月	麻生医療福祉&観光カレッジ 閉校 福岡キャンパス12号館 取得
2023年(令和5年)4月	麻生外語観光&製菓専門学校を麻生外語観光&ブライダル専門学校に改称

2. 設置する学校・学科（2023年5月1日 現在）

学校名(所在地)	学科名	備考
麻生情報ビジネス専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-32)	情報工学科 高度 IT システム専攻 情報工学科 高度ネットワーク・セキュリティ専攻 情報工学科 AI&IoT 専攻 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻 情報システム専攻科 ネットワークエンジニア専攻 情報システム専攻科 AI エンジニア専攻 情報システム科 プログラミング専攻 情報システム科 ネットワーク専攻 情報システム科 AI プログラミング専攻 ビジネスエキスパート科 情報ビジネス科 経営ビジネス科 経理科 国際ビジネス科 国際 IT エンジニア科	留学生専用学科 留学生専用学科
麻生外語観光&ブライダル専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-17) (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	エアライン科 エアポート科 ブライダル・ウェディング科 ホテル・リゾート科 グローバルコミュニケーション科 国際ツーリズムコース グローバルビジネスコース 英語コミュニケーションコース 韓国語コミュニケーションコース 国際おもてなし科 日本語科(1年課程) 日本語科(1.5年課程) 日本語科(2年課程)	学科統合 留学生専用学科
麻生医療福祉専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24) (福岡市博多区博多駅南 2-12-29)	医療秘書・事務科 診療情報管理士専攻科 診療情報管理士科 こども未来学科 こども保育科 社会福祉科 福祉心理学科 介護福祉科 社会福祉士通信課程 精神保健福祉士通信課程	
麻生建築&デザイン専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-11-13) (福岡市博多区博多駅南 1-14-12)	建築工学科 建築士専攻科 建築学科 建築CAD科 インテリアデザイン科 建築学科<夜間> クリエイティブデザイン学科	

麻生公務員専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-14)	公務員専攻科 公務員総合科 公務員中上級専攻科 公務員中上級教養科	
ASO ポップカルチャー専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-14)	ゲーム専攻科 CG 専攻科 ゲーム学科 CG 学科 アニメ学科 マンガ学科 イラスト学科 コミックイラスト科 コミックイラスト研究科	
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区浅野 2-11-33)	システムエンジニア科 コンピュータシステム科 オフィスビジネス科 ゲームクリエイター科 CGデザイン科	
麻生公務員専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区室町 3-2-62)	公務員専攻科 公務員総合科	
麻生看護大学校 (飯塚市芳雄町 3-83)	看護科 看護科通信課程	
麻生リハビリテーション大学校 (福岡市博多区東比恵 3-2-1)	理学療法学科<昼間部> 理学療法学科<夜間部> 作業療法学科<昼間部> 作業療法学科<夜間部> 言語聴覚学科<昼間部> 言語聴覚学科<昼夜間部>	
麻生美容専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	美容科 美容科通信教育課程	
麻生工科自動車大学校 (福岡市博多区東比恵 2-8-28)	1級自動車整備科 2級自動車整備科 自動車工学・機械設計科 国際自動車整備科	留学生専用学科
ASO 高等部 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24)	情報システムコース ゲームクリエイターコース CG・イラストコース	



3. 学校別入学定員、学生数等の状況（2023年5月1日時点）

学 校 名	入学定員	収容定員	在学生数
麻生情報ビジネス専門学校	400	1000	1,167
麻生外語観光&ブライダル専門学校	530	960	490
麻生医療福祉専門学校 福岡校	270	600	391
麻生建築&デザイン専門学校	510	1,100	848
麻生公務員専門学校 福岡校	595	855	605
ASO ポップカルチャー専門学校	240	705	490
麻生美容専門学校	114	228	180
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	160	380	407
麻生公務員専門学校 北九州校	220	300	227
専門学校麻生リハビリテーション大学校	280	880	548
専門学校麻生工科自動車大学校	210	520	312
専門学校麻生看護大学校	60	180	186

4. 組織図 (2023年度)



5. 教職員の概要 (2023年5月1日 現在)

学 校 名	教員 (専任)	教員 (兼任)	職員 (専任)	職員 (兼任)
麻生情報ビジネス専門学校	44	32	35	2
麻生外語観光&ブライダル専門学校	26	80	3	32
麻生医療福祉専門学校 福岡校	27	104	8	
麻生建築&デザイン専門学校	28	55	3	
麻生公務員専門学校 福岡校	29	13	4	
ASO ポップカルチャー専門学校	29	13	3	
麻生美容専門学校	14	26	3	
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	15	21	8	0
麻生公務員専門学校 北九州校	10	6	4	0
専門学校麻生リハビリテーション大学校	36	89	8	0
専門学校麻生工科自動車大学校	18	18	6	1
専門学校麻生看護大学校	12	98	15	0
法人本部			30	
教育本部			15	
GCB 推進本部			20	
経営企画部			18	

II. 事業の概要

2023年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりである。

1. 重点施策の推進

法人及び設置学校の安定した経営基盤確立のため、下記事業活動における各施策の推進に努めた。重点施策の主な実績は以下の通りである。

(1) 学生募集活動の強化

① 募集活動

(ア) 学生の安定的な確保の為、以下の募集活動を展開した。

オープンキャンパス、出張説明会（九州各県及び山口県）

2023年度は、コロナ禍で募集活動が制限されていた状況と異なり、多くの高等学校が通常の進路指導に戻り、高校生の動きもコロナ禍前に戻ることが予測された。そのため、年度はじめより高等学校への営業活動や高校生と直接接する会場ガイダンス、職業理解、セミナー活動を積極的に展開した。

結果的に、募集対象となる高校3年生については、1,2年生時にコロナ禍で営業的な接触ができていなかった影響をカバーするには至らなかったものの、現1,2年生についてはコロナ禍前に匹敵する営業活動を展開し2024年度以降の募集につながる布石を打つことができた。

コロナ禍で培ったLINEなどSNSによる営業活動やオンライン対応については、現在も有効に活用し募集強化の一端を担っている。

(イ) 入学試験

各種入学試験についても、募集活動同様に高等学校や高校生の希望と競合校の動向を把握しながら、基本的には対面形式に戻し対応した。

なお、自然災害や感染症が発生した場合に備えて、対面だけではなくオンラインでの受験ができる体制も維持した。

(ウ) 各種オンラインコンテンツの拡充

進学希望者や保護者、高等学校の先生方の情報収集手段が多様化していることを踏まえ、数年来、YouTube、Instagram等での発信力を高めてきており、2023年度から全国規模のイベントであるTGCとコラボした若年層向けの大型イベントなどを展開した。

② 入学状況

麻生専門学校グループ全体では、建築、公務員分野などこれまで在籍数を増やしてきた分野の入学が減少した。一方でポップカルチャー、美容、自動車の分野などで入学数が増加した。また、エリア別では福岡県外からの出願がコロナ禍前の動きに戻りつつある一方で、福岡県内でのシェアを挽回することができなかった。

結果的に、大学進学率の増加も含めた競合他校からのシェア獲得ができず12校全体で入学数が減少する結果となった。

(2) 就職・キャリア形成支援

学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観醸成及び職業に関する知識・技能を修得して主体的に進路を選択できる能力を育成し、社会で活躍し続ける自立した人材を輩出することを目的としている。

① 就職支援策の実施

学生の就職活動支援においては、ファーストキャリアを重要視し、就職部門と教務部門にて業界企業と連携し、学生及び保護者のニーズを踏まえたうえで進路支援を行っている。変化を続け早期化が進む就職環境において、常に情報収集、情報発信を行い、就職環境に合わせた就職支援施策を企画・実施している。具体的には各分野での「就職・進路ガイダンス」、「個別面接対策指導」、「学内合同企業説明会」等を実施し、学生のより効果的・効率的な就職活動をバックアップしている。

② 求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の導入

11校へのシステム導入によって、学生がスマートフォンからでもタイムリーに求人票の検索・閲覧が可能になり、キャリア選択の幅も大幅に拡大した。また、求人データの入力、管理をオンラインに一元化することが可能となり、担当者の業務効率と質の向上にも寄与している。

③ 多様化する学生への就職サポート

時代の変化とともに学生も多様化していく中において、一人ひとりの学生に合わせた個別指導が更に重要となっている。また、企業採用側においてもマス型採用から個別採用が重要視されてきており、就職指導において個別指導の必要性が増している。

本校では就職に関する相談や面接練習の為に「就活サポート室」や「面接教室」を通年で運営している。専門のキャリアカウンセラーが就職相談や個別面接指導、自己分析、志望動機の深堀など、学生一人ひとりのニーズに合わせた就職サポートを提供した。

④ 外国人留学生への就職サポート

日本国内での就労が可能となるよう、就職支援を手厚く行った。

2023年度も多様な取り組みを実施し、96%の進路決定率となった。

(ア) 留学生採用企業の求人開拓

(イ) 日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」

(ウ) 面接指導

(エ) 各種提出書類の記入指導

(オ) 卒業生同席での説明会開催

(カ) 在留ビザ更新のための勉強会参加

⑤ 実績及びその他の活動

12校就職率は「98.5%」という実績となった。

また、「学生の就職に対する満足度向上」及び「定着率の高い就職」に向け、以下の対策を実施し、求人内定につながると共に、学生・企業双方の満足度が高い求人内定機会を創り出し、人材を通じた社会貢献を実現している。

(ア) 即戦力を養うための教育カリキュラムを企業と共同開発

(イ) 卒業生による支援として、業界セミナーや学内説明会等において業界職種に関する実例をもとにした講話を実施

⑥ ASO 卒業生キャリア支援「CONNECT（コネクト）」の運営

卒業生の再就職支援や仕事の悩み相談や不安解消など、専門のキャリアカウンセラーによる個別サポート体制を整えている。丁寧なカウンセリングを行ない、悩みの解決や自己分析、志望動機の深堀など、社会で活躍し続けるためのキャリア構築のサポートを行っている。

(3) 教育の質向上

① 教員の資質向上

(ア) 授業力向上

教員の資質向上に向けて、授業アンケートに加え、校長代行による各教員への授業評価およびフィードバックを実施し、授業改善を推進している。また、取り組み状況については、自己点検・評価後の審査を通じて確認を行い、職業教育マネジメントサイクルの活性化を図っている。

(イ) 新任教員研修

新任教員の学生対応力、クラス運営力を高めることを目的に初年度研修を計画・実施している。チューターによるサポートに加え、1年間を通しての研修を受講することで、個々人の課題を確認し改善につなげる取り組みとしている。

(ウ) 学内研修

本校教員に授業力・指導力向上を目的とした講座を開講し、受講を促している。ファシリテーション研修やルーブリック評価に関する研修を通して授業の質向上に取り組むと共に発達障がい者やLGBTに関する研修等を新たに開講し、多様化する学生に対する指導力向上にも取り組んでいる。

② 教育の質の向上

企業、社会に貢献するべく、各校にて質の高い授業を展開し、優秀な人材を送り出す教育活動を続けている。カリキュラムの編成にあたっては、関係者からのニーズや意見を踏まえるようにしている。

③ 主体的学びの促進

麻生塾独自のLMS（learning management system／学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステム）を用いた新しい授業スタイルの構築、および国家試験対策プロダクトの開発を進め、学生の主体的学びの促進に取り組んでいる。

④ 授業改善

(ア) 学レポの導入

授業改善の為、2023年度より試験的に3校に学レポを導入した。学レポとはLMSを利用した授業後のアンケートである。分かった点や分からなかった点、授業のおすすめ度を把握して授業改善に役立てている。

(イ) 授業アンケート

半期毎に学生に対して教員の授業内容に関するアンケートを実施した。また、当該アンケート結果を元に、管理職が授業見学を実施し、その結

果を教員にフィードバックすることで、今後の授業運営改善や必要な能力開発を実施している。

(4) グローバル化の推進

2023年度は新型コロナウイルスによる渡航制限も撤廃されたため、海外への留学プログラムを再開した。円安や物価高騰等の理由により長期留学を希望する学生はいなかったものの、短期留学では6名、また麻生塾が費用を支援する麻生塾海外留学奨学制度では、4名の学生が海外留学を果たした。また、全グループ校の学生が参加できる無料英語講座等を実施した。

① 麻生塾海外留学奨学制度

在校生の英語に対する興味喚起と異文化理解促進を目的に、麻生塾海外留学奨学学生制度を2015年より開始した。例年フィリピン・セブ島での2週間の語学研修を実施していたが、2022年度から派遣国を増やし、カナダ・オーストラリア1週間またはフィリピン・セブ島2週間のどちらかを選択できるようにした。2023年度は、4名をカナダに派遣した。帰国後には「成果報告会」を実施し、在校生や教職員へ自身の成長について発表を行った。

② 外国人留学生の受入れ

麻生専門学校グループでは、世界各国（アメリカ、中国、フランス、ベトナム、スリランカ、韓国、タイ、インド等24カ国・地域）からの留学生を「日本語科」と「専門課程」で受入れている。2023年10月時点において麻生専門学校グループで学んでいる外国人留学生数は523人である。留学生受け入れに際しては外国人スタッフ5人を配置することで学習支援のみならず、生活支援や就職支援にも対応している。日本語科では卒業後に麻生専門学校への進学を目指す学生も多く在籍しており、2023年度には55人が麻生専門学校に入学している。

また、専門課程には留学生に特化した学科も設置している。2023年度の専門課程の入学者については、コロナ禍による日本入国制限により福岡都市圏の日本語学校の卒業生が激減したため、2022年度の154名に対し122名に留まった。しかし、2024年度については2023年度の日本語学校卒業生が急増することにより、大幅に増える見込みである。

③ 海外留学（長期／短期）の強化

麻生塾では「グローバル社会に対応できる人材育成」に向け、全在校生を対象に海外留学プログラムを提供している。プログラムは夏季・春季の長期休みを利用して参加する短期留学と、1年間休学して参加する長期留学を実施している。

留学に際しては、留学カウンセリング、留学説明会・報告会などの支援に加え、留学先でのリスク回避を主眼においた出発前危機管理セミナー、英語学習や異文化理解に関する研修等、学生のみならず保護者の方々にも安心して留学に参加してもらうための支援を行っている。海外への送出し先としては、8カ国、16教育機関となっている。

2023年度は留学プログラムの再開を決定し、全在校生へ案内を行った。円安等の影響で長期留学の希望者は0であったが、短期留学では6名の学生が海外に渡航した。また、カリキュラムに海外研修が組み込まれている学校においては、フィ

リピン、ニュージーランド、韓国での研修を行った。

④ インドネシア BINUS 大学 3,4 年次生のインターンシップ受け入れ

将来的な麻生及び麻生グループでの高度外国人人材採用を視野に、2020 年より毎年約 1 年間、BINUS 大学の 3,4 年次生 3~4 名を麻生塾にて対面インターンシップ生として受け入れており、2023 年度も 4 名を受け入れた。日本語の語学研修を行いつつ、各人の BINUS 大学での専攻分野に対応する部署で業務を経験した。尚、このインターンシップは BINUS 大学の単位として認められている。インターンシップ生の日本での就業体験はもとより、麻生専門学校グループのグローバル対応能力向上に向けての取り組みの 1 つとなっている。例えば、麻生塾学生へ無料の英語講座を実施するなど、グローバル推進に貢献している。

なお、2023 年度のインターン生 4 名の内、1 名がインターン終了後に麻生塾の内定を取得し、1 名が日本国内の大学院に合格している。

⑤ 教職員におけるグローバル感覚醸成

教職員におけるグローバル感覚の醸成を目的に、教職員自身がグローバルな視点を養えるよう取り組みを実施している。2023 年度は、グループ会社の社員を交えた BINUS 大学からのインターンシップ生との国際交流イベントを 5 件実施するなど、教職員が気軽に英語を使用し、外国の文化・価値観に触れられる機会を提供した。従来からある教職員向け無料英語講座の受講斡旋も例年どおり行い、2023 年度は過去 6 年間で最多の 60 名の教職員が講座を受講した。

2. 学校運営

(1) 運営組織

組織体制としては 12 校の専門学校に加え、各校の運営をサポートする本部機能を有している。

① 本部機能

法人本部・教育本部・GCB 推進本部という 3 本部体制により、各学校とスピードを持った連携を図ることを目指した。また、機能別に役割を分けることにより、各部門の役割と部門の目指すべき方向性を明確にした。

② 各学校

学校運営全般業務

(2) 社会的責務への対応

学校法人麻生塾は、様々な立場の学生が在籍しており、社会から寄せられる教育ニーズも年々多様化している。コロナ禍の収束とともに、留学生も増加の傾向にあり、果たすべき責任も大きくなっている。

学校法人麻生塾としては、改めてその果たす社会的責任を認識し直し、保護者等及び地域社会・企業から信頼される組織としてのあり方を再確認した。

① 社会的責務を果たす前提としての組織適正化

麻生塾ではこのような法令順守の重要性およびコンプライアンスの観点から、組織として、2023 年、「危機管理体制」としてリスクマネジメント委員会の再編し、リスク管理、リスク事案発生時の迅速対応を図る体制の見直しを行った。

この再編により、リスク事案への迅速な対処や事案発生を防止を図ることができるようになり、学生・家族、教職員の心理的安全性の確保に繋がっている。

② 継続的取り組み

(ア)学校・法人全体としてのリスク対応力を強化するため、引き続き、定期的にリスクマネジメント委員会を開催する。事例の共有、またそれを踏まえての啓蒙・啓発に加え、ヒヤリハット事案の共有も積極的に行う。それにあたって、リスクマネジメント事務局内でも、ヒヤリハット事案の原因分析を行う。

(イ)各校において対応に苦慮していると思われる事例について、対応のマニュアル化、ガイドライン化を行う。これにより、各校が安心感をもって自律的に対応ができるようになり、学校・法人全体としての対応力の向上にも繋がる。

③ 2023年度の取り組み

(ア)リスクマネジメント委員会にて事例・事案の共有を行い、どのような事案が発生しているかについての認識を持つようにした。

(イ)リスクマネジメント委員会にて、事案からの教訓を踏まえた研修を行い、各部門の啓発・啓蒙を行った。

(ウ)リスクマネジメント委員会にて、外部のリスクマネジメント専門団体を招き、リスクマネジメントの理論や近時の事案についての説明を受けた。

(エ)各種マニュアルの改訂を行い、組織全体としてのコンプライアンス体制の強化を図った。

3. 教育活動

(1) 学科の新設、廃止

① 麻生外語観光&ブライダル専門学校

製菓パティシエ科の廃止に伴い、校名を麻生外語観光&製菓専門学校から麻生外語観光&ブライダル専門学校へと変更した。

(2) キャリア教育 (GCB 教育)

① GCB 教育の概要

麻生専門学校グループの教育理念に沿った人材育成の一貫として位置付けられている独自のキャリア教育プログラムである。実社会にて、専門スキルを十分に発揮するため必要とされる社会人スキルと、その土台となる人間力の向上を目的とし、3段階の教育内容にて構成されている。

教育目標は、麻生グループ 117 社 (2023 年 4 月 1 日現在) が掲げる人材「グローバルシティズン」(定義:世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献する人)を育成像とし、GCB I・II プログラムについては全学生が履修する。

(ア) GCB I

社会で生き抜く基盤を「感謝する心」として据え、自らの責任において行

動できる積極性や、良好な人間関係を構築するコミュニケーションなどを中心に「社会人基礎力」の理解と向上について学ぶ

(イ) GCBⅡ

強い信念と共に公・社会を視野に入れ、具体的な行動目標(言語化・数値化)をもって努力を継続することで実現する「志」について考える

(ウ) GCBⅢ (選抜方式)

グローバル社会における活躍人材や多様性を生かしたリーダーシップ、また組織力を高めるフォロワーシップなどを学内外の講師陣より学ぶ

② 教育改善

本校独自のキャリア教育プログラムとして2010年の導入以来、GCBⅠ・Ⅱにおいては、「人間力＝マナー(協調性)・人間性(感謝心)」を軸とし、「社会人基礎力」の強化を図る内容を付加することで、プログラムのブラッシュアップを行ってきた。知識習得型の科目でないことから、学生の行動変容を促す担当教員の指導力に開きが生じてしまう点が課題であったが、基本プログラムに沿ったオンデマンドコンテンツ(GCBⅠ・Ⅱ)を完成させ、授業力の標準化を図ることができた。

今後は、社会の変遷に沿って、プログラムをブラッシュアップしていく際、担当教員に向けての指導研修を充実させていく予定である。

GCBⅢは、履修を希望する学生を対象として正規出校日外に開講されるプログラムであり、福岡キャンパスで実施している。2021年度よりライブ型オンラインにしたことで、看護科(飯塚市)や北九州キャンパスの学生たちの参加が容易になった。総合専門学校として異分野の学科で学ぶ学生たちがディスカッションやチームビルディングに臨む学びは、多様性の理解につながり、社会人予備軍としての人材育成の一助になっている。

2023年度は、SDGsを基盤に「ビジネスと人権」というテーマにて、チームでの取り組みを行った。

(3) 研究関連活動

文部科学省および厚生労働省の委託事業の参加状況は下記のとおりである。

- ① 製菓分野における、教育効果の高い遠隔及びeラーニング教育実践モデル開発事業
- ② 遠隔教育によるチームプログラミング導入モデルの構築
- ③ Society5.0 [創造社会]における情報分野のDX人材養成プログラム開発プロジェクト
- ④ 自動車業界における“業務に直結する”基礎知識・先端技術の習得プログラム開発
- ⑤ 福岡県看護教員養成講習会
- ⑥ 「先端技術利活用実証研究プロジェクト」看護分野における遠隔教育導入モデル開発事業
- ⑦ 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
(ア)職業実践専門課程の一層の社会的評価向上のための共通的基盤整備の推進事業

(イ)教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・
推進事業 等

4. 学生支援

(1) フレックスクラス・学生相談室

フレックスクラスは、学生の多様化にともない、諸々の課題を抱え、通常クラスでの修学が困難な学生を対象に「学びの第二環境」という位置づけにて、福岡キャンパス内に 2022 年度より設置された。オンライン授業等を活用しながら単位履修に努め、同時に社会性の育成、意識向上に向けての指導を行うことにより、卒業や通常クラスへの復帰を目指している。2023 年度は 40 名の学生が利用し、卒業および本クラスへの復帰率は 77%だった。

また、安心して学生生活を送ることができるよう、学生相談室を設置し、精神面での課題を抱える学生には臨床心理士が継続的な支援を行いながら、必要に応じて医療機関へ繋ぐことや、日常における修学や就職活動などの不安、悩みを持つ学生たちには、担当職員によるサポートを推進している。

運営にあたっては、守秘義務を順守するとともに、個人情報保護管理規程に則って相談内容を適切に管理している。

① 実施内容

- (ア) 臨床心理士によるカウンセリング
- (イ) 担当者によるインテーク面談

(2) 学びラボ

基礎学力面でのサポートを実施するために「学びラボ」を設置し、学生の基礎学力習熟度に応じて個別授業・集合型授業を実施し、学修意欲の維持向上に努めている。

① 実施内容

- (ア) 開講期間：7 月～2 月（全 27 回）
- (イ) 科目：国語・数学基礎

(3) 学修支援のための奨学金制度

将来有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、多様な能力を評価する奨学生制度を実施している。

- ① 特待生制度-特待 A（学力特待生制度）
- ② 特待生制度-特待 B（総合力特待生制度）
- ③ 特待生制度-特待 C（資格等特待生制度）
- ④ 再進学支援金
- ⑤ 自然災害発生に伴う支援制度
- ⑥ 寮奨学制度
- ⑦ 麻生塾海外留学奨学制度

5. 教育環境の整備

(1) 教育環境の整備状況

- ① ICT 教育環境の改善

オンライン授業やクラウドサービスへの接続安定化のため、号館ごとにインターネット回線の増強、Wi-Fi 環境の改善を行った。

6. 社会貢献・地域貢献

(1) 活動状況

① 次世代リーダー養成塾への担任派遣

日本の次世代リーダー養成塾とは、経済界や地方自治体を中心となり、全国の志の高い高校生を対象に日本以外にも世界を舞台に挑戦する人材の育成を目指したサマースクールである。次世代リーダー塾では、従来の学校教育では実現できない、日本や世界を代表する様々な分野で活躍する一流の講師を招き、学問の楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを教える。

クラス担任は企業の中堅社員が務めており、麻生専門学校グループからは毎年講師を派遣するなどして活動を支援している。

② ボランティア活動

(ア) 地域ボランティア活動

国家・地域社会に貢献する観点から、学生的人間的成長を促すため、学生の社会貢献・地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。

活動内容： ・中州環境浄化パレード
・博多どんたく港まつり
・放課後児童クラブ
・ATMパトロール 等

(イ) 子ども食堂

地域の小学校、公民館と連携し学生が企画・計画・運営を行うこども食堂を学内で月1回のペースで実施している。食事の提供や、こども達の宿題などを支援する活動や健康増進のためのレクリエーションなども実施している。

内容：地域の子どもたちに食事の提供 / 学習支援 / レクリエーション
連携団体等：小学校、公民館、社会福祉協議会、一般企業、NPO（特定非営利活動法人フードバンク福岡）

7. 働きがい創生

(1) 多様な働き方への対応

1人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事の責任を果たすとともに、家庭や地域生活において、多様な生き方を選択・実現できる様、下記の取り組みをおこなっている。

- ① 適切な労働時間の管理や年次有給休暇取得の定着（法定年休5日含む）
- ② 長時間労働の削減。業務負荷分散に対する取り組みの実施。
- ③ ライフステージに応じた働き方に対する情報発信（時短勤務、育児休業・休暇、子の看護休暇、介護休業・休暇、時差出勤など各種制度）
- ④ 女性の育児休業取得率は100%を達成。男性の育児休業取得実績3件。
- ⑤ 時間単位年次有給休暇制度の定着。

- ⑥ ノー残業デーの定着（月に1回以上）
- ⑦ 学内保育園『ASOはぐみらい保育園』での育児サポートの情報提供
働きやすい環境づくりとして、『ASOはぐみらい保育園』の運営を通じ、
育児サポートしている。教職員利用者のために、幼保無償化の認定施設の
許可を得た。
- ⑧ キャリアプランやライフステージに合わせた働き方を実現するための幅
広い雇用形態の整備と定着。
- ⑨ 年間休日数 120 日へ変更

以 上